

昭和54年度 和歌山県文化奨励賞

はし づめ やす お
橋 爪 靖 雄

住 所：和歌山県海南市

生 年：昭和10年

◎業績及び経歴

漆芸家の父、義雄氏の影響をうけ、幼少の頃から絵画の才能を発揮され、中学時代洋画で県展に初入選を果たされた。

海南高校当時は彫塑もてがけられていたが、昭和33年から数年漆芸家佐治賢使氏に師事され、下地から蒔絵、螺鈿、平脱、平紋などの技法を習得された。

昭和37年、日展初入選以来10回入選を果たされている。

氏は、蒔絵技法のなかでも特に「研ぎ出し」「きんま」技法をよく用い、伝統の蒔絵構図を生かしつつ洋画風の図柄で作品をまとめ、その作風は自然愛にみちた詩情豊かなものである。

昭和40年、若手漆芸家の「グループ漆」の創設にも貢献された。

また、昭和49年から自由な発表の場と、漆芸の振興をめざして、毎年、卍流家元との共同展を企画されている。現在、日本新工芸家連盟会員、県美術家協会理事、県展審査員を務められている。

県民文化会館2階ホワイエ壁面装飾は、氏の属されていた「グループ漆」の作品である。